

かお・人インタビュー

2015年9月24日(木)

(一社)福岡県地質調査業協会

花村 修理事長 に聞く

(一社)福岡県地質調査業協会の理事長として2期3年目を迎える花村修理事長。地質調査の技術は「土砂災害や豪雨災害、地震など自然災害の多い日本列島の防災・減災のために必須の分野であり、その使命は大きい」という。座右の銘が“技術は社会のためにある”、特技に“地質踏査”を挙げるほど技術畑一筋の職人さん。やさしげで温厚な人柄だが、会話の端々から信念を貫く地質職人としての誇りと自信が感じられる。そんな花村理事長に、地質調査業界の現状と課題、将来の展望などについて話を聞いた。

◎貴団体の紹介について

県内外の地質調査業者が結集して昭和54年7月に設立し、同年12月に法人登録。平成21年12月に創立30周年を迎え、平成26年4月から一般社団法人へ移行。地質調査業の社会的地位の向上、地質調査技術の進歩、向上による社会への寄与を目的としています。最盛期には60社以上の会員がいたが、現在の会員数は34社です。

◎平成27年度事業計画や活動について

5月に通常総会があり、年間行事の企画、準備、決算、予算案審議を行い、理事会を年6回開催している。受験者のための「地質調査技士検定試験事前講習会」(6月)、全国地質調査業連合会が全国で実施する民間資格の「地質調査技士」、「応用地形判読士」、「地質情報管理士検定試験」(九州地質調査業協会から試験監理を委託、7月)の実施。専門分野周辺の技術向上を図るために「技術講演会」

(10月)、会員の現場技術向上のため応用地質学会と共催で「現場見学会」(11月)、官民の若手技術者の現場勉強会・親睦として「若手技術者交流会」(福岡県と共催、12月)等を行っている。

このほか、地質調査業の認知度向上及び市民防災意識の啓蒙活動として「市民のための科学講演会：7月」や業界の現状と将来について議論する「福岡県との意見交換会：1月」(県土整備部、農林



水産部)、新年賀詞交換会等を計画しています。

◎業界の現状についてはいかがでしょうか

業界全体の受注状況は、最低時期に比べれば向上しつつあるが、本年度は現時点で昨年度比やや低調に推移していますね。地質調査分野は新規プロジェクトの上流側に係るが多いため、発注量は新規事業の採択に左右されるのですよ。

近年は、発注形態の多様化に伴

って、多くの企業に平等な受注環境が整えられているが、その反面、受注競争が激化している。地質調査は他分野に比べ、資機材の消耗は少ないが、石油の高騰等の影響があります。また、構造物の維持管理に関するノウハウが確立されていないため、ストック点検等の業務の受注が少ないのが悩みです。



◎担い手の人材確保・育成についての取り組み

私たちの業界は特殊な分野であるため、社会的認知度が低いことが人材確保や育成を困難なものにしているのではないかと考えている。個々の企業では改善が難しいので、協会がさまざまな活動を通して取り組

むことが重要であり、民間資格の創設と認知、各種講演会、発注機関との意見交換会などの活動を通して対応していきたいと考えている。



◎改正品確法に伴う福岡県や発注機関への要望

業界の要望としては、①調査基準価格の引き上げ（90%以上）、②専門技術に対する重要性の認知とし

て「地質調査分野の完全分離発注」、③業界技術者の転職において、技術職公務員の中途採用の抑制、などを望んでいます。

◎その他のことで特に訴えたいこと

地質調査の技術は、自然災害の多い日本列島で安全、安心に暮らすために必須の分野であり、異常気象によって多発する土砂災害や

近未来に予想されている南海トラフ巨大地震の防災や減災のためにも、我々の使命は重大であると考えている。これからも地質調査技

術の重要性を訴え、将来の日本社会のために貢献できるように、この分野の技術を広め、継承していきたい。

◎趣味・特技・生きがい・座右の銘など

読書（ノンフィクション、各種ジャンルの新書等）とゴルフが趣味。歴史上の人物や戦国武将など人間にスポットをあてた本が好きで、その人物が歴史をどのようにつくりてきたか、生き方などに興味がある。特技は特にないが、強いてあげれば地質踏査（職人）、技術者としてのスキル向上が生きがいで、「技術は社会のためにある」が座右の銘。





◎プロフィール

出身地—福岡県飯塚市、

生年月日—1952年7月

職歴—1982年（株）九州地質コンサルタントに入社。

現在、代表取締役社長

主な役職—福岡県地質調査業協会理事長、

九州地質調査業協会理事、応用地質学会九州支部評議員